

# 新年のごあいさつ



登別市議会議長  
沼田 一夫



登別市長  
小笠原春一

新年あけましておめでとうございます。

市民の皆さまには、お健やかに新年を迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。

平素より、議会運営に対し特段のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて昨年は、尖閣諸島における中国漁船衝突事件をはじめ、ロシア大統領による国後島訪問、北朝鮮による韓国・延坪島砲撃など日本を取り巻く環境は緊迫化しました。

一方、景気変動などで円高が進行し、金融不安や景気低迷による雇用悪化など厳しい経済状況が続く中で新しい年を迎えました。

地域のことは地域の住民が責任をもって決めるという地域主権改革が進められようとしておりますが、地方自治体を取り巻く環境は大きく変化し、市議会の果たすべき役割や責任は極めて大きいものと認識しております。

議員の責務を果たすには、議員一人一人が自らを律する必要があることから、昨年末に『登別市議会政治倫理条例』を制定しました。

また、市民の皆さまからいただいたご意見を適切な時期に市政に反映するため、6月に定例会を開催することとしたほか、議会活動の規範となる『登別市議会基本条例』の策定作業を進めており、『市民と協働する議会』を目指し、今年も全力で取り組む決意しております。

結びに、市民の皆さまにとりまして、今年もご健勝で明るく幸せな年となりますよう心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

新年あけましておめでとうございます。

市民の皆さまにおかれましては、輝かしい希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、3月に市民活動の拠点施設である市民活動センター『のぼりん』がオープンし、8月には、市民活動への理解や参加を呼び掛ける『のぼりべつ元鬼まつり』が、まちづくり団体や市民の力により開かれるなど、市制施行40周年を契機に市民の活動が輝き、『協働のまちづくり』への歩みをさらに進めることができた1年であったと感じております。

また、姉妹都市である宮城県白石市を中心に神奈川県海老名市とともに『災害時における相互応援に関する協定』を締結したほか、今春には『トライアングル交流宣言』の締結を予定するなど、今後、より親密な交流が図られることが期待される1年でもありました。

このように明るい話題が多かった昨年でありましたが、長引く不況の影響により市内の経済は依然として厳しく、また、市も同様に厳しい財政運営を強いられております。

そのような中にありながらも、市は、まちの元気を回復させる事業の推進や市民が安全に安心して暮らせるまちづくりを市民の皆さまや企業と手を携え取り組んでまいります。

本年が皆さまにとって、幸多き年であることを祈念し新年のごあいさつとさせていただきます。